

# 年頭のご挨拶

公益社団法人 鹿児島県看護協会 会長 八田 冷子



令和6年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

鹿児島市医師会の先生方におかれましては、本年も引き続き本協会会員はもとより看護職へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

すでにご承知のとおり、「看護師等の確保を促進するための措置に関する基本指針」が30年ぶりに改訂され、看護界にとりましても大きな節目を迎えております。基本指針には、中長期的視点に立ち、看護職の「養成」「処遇の改善」「資質の向上」「就業の促進」等について関係者が一体となり総合的に進めることが明記されており、本協会と致しましても、指針に基づき職能団体の役割を果たせるよう努めてまいりたいと考えております。

昨年の主な本協会の取り組みの1つとしては、家族会や県議会からの強い要望があった「医療的ケア児等支援センター」を県から委託され、開設いたしました。9月～11月の間に、延べ176件の相談が県内各地から寄せられており、センターへの期待の大きさを感じております。関係者と連携を図りながら1例1例大切にセンターの役割を果たせるよう努力してまいります。

2つ目としては、医療法・感染症法改正により「災害支援ナース」の仕組みが大きく見直され、「災害・感染症医療業務従事者」と位置付けられることから、12月に養成研修会を開催いたしました。55施設129名が受講し、今後の災害や新興感染症への備えをスタートいたしました。令和5年度中には県が受講登録者の施設と協定を結び、災害・感染

症発生時の派遣体制が整うこととなりますので、該当医療機関の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

また、本県看護職にとって大変喜ばしいこととして、平成2～5年度本協会会長を務められた今村節子氏が、日本の看護草創期における教育体制の構築、予防を重視した看護活動や人材育成等の功績により、本県としては3人目、45年ぶりに全世界の看護の最高峰といわれる「フローレンス・ナイチンゲール記章」を受章されました。12月16日に受章記念披露会を実施し、県内看護関係者と共に改めて今村氏の功績を振り返るとともに、鹿児島の看護を次世代へ継承する貴重な機会となりました。こののちまた今村氏のような「鹿児島のナイチンゲール」が登場することを切に願いたいと思います。

新春を迎えましたが、戦争の渦中にある国々では子供たちをはじめ多くの命が奪われ、人々の生活が脅かされ続けています。日本においても2040年に向け人手不足に拍車がかかり、貧困や病気・障害などで生きづらさを抱えた人たちの増加など多くの課題が山積しており、先生方と共に、看護職もまたその使命や役割を果たしていかなければならないと考えております。本協会としても医療チームの一員として質の高い看護職の育成確保に努めてまいります。

結びに、鹿児島市医師会の益々のご発展を祈念し新年のご挨拶とさせていただきます。